20231215 猪高の森自然観察会　2023 年 12 月報告書

猪高の森自然観察だより　12 月号

開催日時：2023 年 12 月 15 日（金）
天候：雨　　気温：最低 9.3℃、最高 12.4℃（名古屋に於いて）

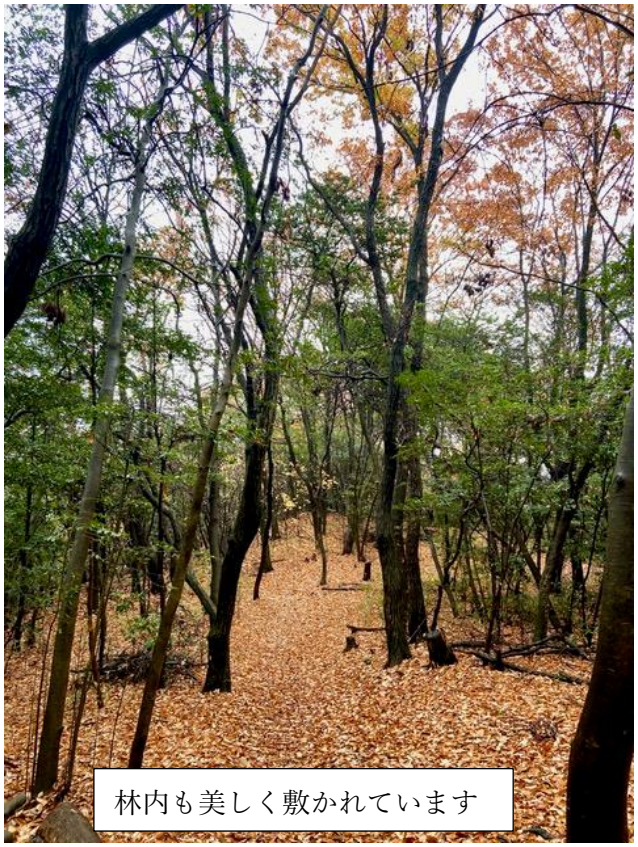
12月は定例会はないので、テーマはありません。
参加者構成:自然観察グループ員 2 名
コース:森の集会所 → シダレザクラの里→ こもれび池→ 井堀の谷地田（棚田）→ 井堀下池→ 森の集会所　（左上の画像は雨天時のタンポポの冠毛。画像は猪高緑地外で写したものも含みます）

暖かい日は今日（15 日）と明日で終わり、明後日からは平年かそれ以下の寒さになるとの予報が出ています。あいにくの雨の中を巡ってきました。（その後、予報通りの寒波が到来、著しい気温差です。

〇木の葉が昨夜の雨の為でしょうか、敷き詰めたように落ちていました。

集会所横の自転車置き場もこの通り

そこで、問題です。この落ち葉や木の枝は何の樹でしょうか。緑色の時期や花の時期でなくてもわかると楽しいですね。（答えは次の頁の最後です。）



林内も美しく敷かれています

①

②

③

④

○冬の花と落ちない葉

ヒイラギの花

ツワブキの花

ビワの花

サザンカ園芸種の花

ヤマコウバシの冬には落ちない葉

冬に咲く花は少ないので、越冬している昆虫たちには、貴重な食料です。日が差し暖かい日には、ハエやアブの仲間がよく訪れています。ヤマコウバシは冬には**落ちない葉なので、**受験生のお守りとして人気の樹です。日本全国のヤマコウバシは同じ遺伝子を持ち、雌木だけで実を付ける単為生殖をする珍しい木でもあります。春に新芽が伸び始めると葉を落とします。　ヒイラギは春に実を付けるモクセイ科の樹です。今、実を付けている西洋ヒイラギはモチノキ科なので同じような棘のある葉をしていますが、仲間が異なります。サザンカの本来の自生地の北限は山口県で、原種は白の一重咲の花です。身近にあるサザンカはまず園芸種と思って間違いありません。

1頁目の木の葉の答え

① タカノツメ・・落葉は雨に濡れて発酵するとカラメルのような甘い香りがします。

② ウスノキ・・ツツジの仲間。春には釣鐘型のかわいい花を咲かせます。

③ コナラ・・この近辺の林ではアベマキと共に最も目にする機会の多い樹です。葉や実の大きさや形など比較的変異の多い樹です。

④ クズ・・三出葉のうちの一枚が取れて落ちてきたのでしょう。旺盛に育つつる植物なので、花の時期には頭上から花びらが落ちてきます。海外では、外来種として悪名をいただいています。

〇イセリアカイガラムシは幼虫で冬越しをします。

こもれび池のユキヤナギに１cm 弱の白い綿みたいなものが付いています。季節外れの花と間違えられることもありますが、これは**イセリアカイガラムシ**（別名「ワタフキカイガラムシ」）です。（①および②）拡大すると③、右側の縦筋ある白い綿のような部分は卵嚢（らんのう）で、今の時期は卵と幼虫が入っています。④はその中の拡大画像です。赤い楕円の丸いものが卵、上部に写っている黒い足が付いている長い丸のようなものが幼虫と思われます。

良く見受けられるカイガラムシですが、細かく観察したのは初めてでした。オーストラリア原産で、日本には明治 40 年代に、はいって来たとされています。アメリカでは、かんきつ類に甚大な被害を及ぼしましたが、天敵であるベダリヤテントウ（テントウムシの仲間）の導入により、抑え込むことができ、日本でもいち早くこのテントウムシの導入により、大きな被害を出さずに済んだ、とされています。このことは天敵導入の代表的な一例とされます。

〇やっと本来の冬の気温、葉痕・冬芽の観察に良い時期が来ました。

　これはクサギの葉痕（葉の付いていた痕）です。ひづめのような形の中にＵ字型に維管束（水や栄養分を運んだ管の束）の痕が並んでいます。
　樹種によって特徴があるので、冬が観察に恰好の時期になります。

　中には動物の顔のような模様の葉痕もあり、楽しませてくれます。

タカノツメの冬芽

　タカノツメの冬芽の形は、樹の名前の由来になっています。「鷹の爪」に似ているのでその名がつけられました。

アオギリの冬芽（城土公園）

アカメガシワの冬芽（城土公園）

アオギリの冬芽はフカフカの毛に覆われて暖かそう。アカメガシワの冬芽は逆に丸っきり裸の芽。「裸芽（らが）」と呼ばれています。

ソメイヨシノの冬芽（城土公園）

桜のソメイヨシノの芽は鱗のような芽鱗（がりん）と呼ばれる組織に覆われています。よく見ると芽鱗に毛が生えています。桜の仲間にはこの毛が生えていない種類もあり、区別点のひとつです。

葉痕も冬芽も良く見ると、色々な種類があり、樹でも冬越しの仕方は様々です。冬が葉痕、冬芽がもっとも見やすくなる季節です。来月号で詳しく紹介します。

〇他に見られた生き物は・・。

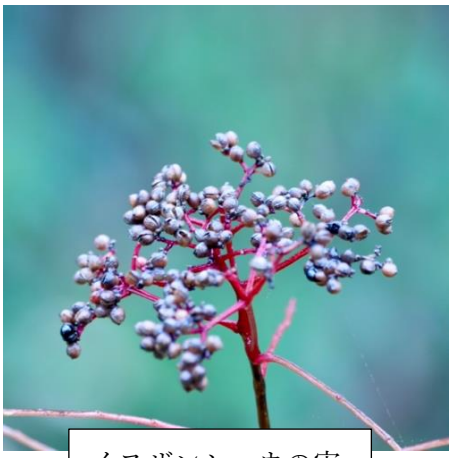
弾けたツルマメの莢（谷地田にて）

ホコリタケの仲間（？）

ヤツデ（雌性期。先月号では雄性期を紹介）

命尽きたカマキリ（谷地田にて）

コジャノメと思われる遺骸（集会所のトイレにて）



イヌザンショウの実

次回観察会は来年 1 月 28 日（日）

森の集会所集合　9：30～です。

名東自然倶楽部の HP では毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

http://sizen.ciao.jp/　**から是非ご覧になってください。**

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）